

学術雑誌への投稿論文を学位論文とする場合は、出版社との間で著作権の問題が発生することがあります。学術雑誌に投稿する場合、著作権の一部（複製権等）を出版社に譲渡するという条件が付されていることが多いため、自分で執筆した論文であっても、出版社に無断でインターネット公開できないケースがあります。

最近の状況では、大手出版社は条件付きでリポジトリ掲載を認めていることが多いです。よくある条件は、学術雑誌掲載後、一定期間が経過した後ならば掲載を認める、出版社版は掲載不可だが著者版なら掲載可、掲載雑誌名、巻号、掲載ページ、DOI 等を明記する、といったものです。著者版とは、それぞれの雑誌固有のレイアウトに組み込まれた完成形ではなく、Word 等で書かれたままの状

態の論文です。雑誌に投稿する論文をいずれリポジトリに掲載するかもしれないという場合、途中経過の状態の論文も保管しておくことをお勧めします。図書の場合は、発行されてから相当の年月が経過し、絶版等で容易に入手できない状況にある場合などは、リポジトリ掲載の許諾がもらえることがあります。

弘大リポジトリは、これからもコンテンツを増やし、地道に成長を続けていきたいと思っています。リポジトリはつまるところ、コンテンツの保管場所であり、コンテンツ無くしては成り立ちません。学内の先生方、大学院生の皆さん、ぜひ登録をお願いいたします。

(さいとう かおり)

## 他大学図書館紹介

### 弘前医療福祉大学総合図書館

弘前医療福祉大学図書館長 加地 隆

弘前医療福祉大学は、昭和 40（1965）年に設立した弘前料理学院が起源で、平成 21（2009）年に開学、短期大学部は平成 14（2002）年に開学し、今年短期大学としては全国初の 3 年制での救急救命学科を付設、スタートしたばかりの発展中の大学です。現在、図書館ではコンピューター関係の整備をしながら、大学の図書を充実させつつ、短期大学部のとくに救急救命学科関係の図書を購入しています。大学は小規模でまた開学からの年数が浅いため、蔵書数は十分とは言えませんが、教

員の指導や学外実習中の長期貸し出し制度等もあり、また卒業生を含む学外からの利用も多く、グループ学習室の利用も含めて、図書館がよく利用されているのが特徴となっています。地域の人たちによって生涯学習のために有効活用していただけることも本学図書館の重要な課題と考えています。また、大学 1 年次学生のカリキュラムにおいて今年度からスタートした基礎ゼミナールにおける各種指導により、図書館の本がさらに良く利用されることを期待しています。

次に、大学開学以来の最近 5 年間の本学図書館の取り組み方や特徴について、上に述べた事と関連して、またそれ以外の点についてご紹介します。

1. 新着本コーナー（写真 1 を参照）や推薦書コーナー等により学生に興味をもたせ、本を手にとって内容を見る機会をつくる試みをしています。
2. 敷居を低く、視野を広くする試みとして、ブックレット（小型本）コーナーを設置しました。
3. グループ学習室を館内に 2 部屋設置（写真 2 を参照）しており、この部屋は各種試験の勉強会や卒業研究等とも関連して利用頻度が高いようです。
4. 図書館事務員が 2 人に増え、事務処理や利用者へのサービスも円滑になりました。
5. 館外にある学内掲示板を用い、またわかりやすい館内案内表示により案内・情報提供をしています。

6. 学内外の利用者が蔵書検索できる OPAC を整備し、また学生や教員のために専門家による情報検索法の利用者講習会も開催しています。
7. 大学紀要および短大紀要といった本学発の雑誌の陳列に加えて、開学 50 周年の年でもあり、本学教職員等によって本学在籍中あるいは在籍中の仕事をもとに出版された、言わば‘本学発の本’を陳列するためのコーナーの設置を計画中です。



写真1 新着本コーナー



写真2 グループ学習室